

NPO法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-18-3

国分寺マンションB-03A

(FAX)0237-67-7001

(HP) <http://japankatarinet.jp/>(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(振替)00130-2-114808

2023. 4. 18 発行

ニュース

語りは過去から未来へ

澤口杜志 (岩手県盛岡市)

昨年10月加賀で行われた『第15回語りの祭り』は本当に楽しいものでした。このコロナ禍で開催まで実行委員の皆様がどんなにご苦労されたかと思うと感謝の言葉しかありません。久しぶりの方は勿論、リモートでは会っている方でも、直に会える嬉しさは格別でした。語りの部屋の定員を決め、人の移動が全くありませんでしたので、じっくりと語りを聴くことができました。どの語りも熱意が伝わり面白くて、さらに語る方の人となりまで見えてきて感慨深いものでした。自主企画で私は同じ岩手県盛岡市の語り仲間友人の藤澤陽子さんと宮沢賢治を語りました。岩手の賢治さんの心象風景を少しでも伝えられたらの思いでした。たくさんの方に聴いて頂いたのは本当に励みになりました。その時『南部紫根染』の着物を着て語りましたが、長いグレーヘアを結い上げていました。行きつけの美容師さんに頼んで四日間保てる髪型でした！(実のところ仰向けに寝られず、緊張もあり熟睡できませんでした・・・)余談ですがその3年伸ばした髪をこの3月にヘアドネーションの為に切りました。ベリーショートカットにしてもらいましたので、37~40cmの長さの髪の毛を寄付できました。東日本大震災の3月11日の頃に髪を切ると決めていたのは、自分の中で新しい出発が欲しかったのかもしれない。

ここで私の『語り』歴を振り返ってみます。地元盛岡で学生の時文庫の設立に関わり、就職してもそのまま文庫のお姉さんをしていました。約50年前です。盛岡市立図書館で子ども向けの『おはなし会』があり、『ストーリーテリング』に出会います。その後結婚して岩手を離れ夫の転勤で熊本、埼玉、東京、東広島、高知、つくばと転居していくのですが、『語り』とは縁が深くなっていきました。そしてたくさん素晴らしい友人、仲間、先輩と巡り合いました。これほどの幸運はありません！23年前に盛岡に戻り『うすゆきそう文庫』を続け、良き仲間と共にこのコロナ禍でもなんとか『語りの会』を開催してきました。物語を語る人の声がどれほど人を勇気づけるのかと実感したことです。そして自分自身も真摯に『語り』に向き合えるようになったと思います。透る声で聴き手の心に響く語りをしたいものと日々努力中です。(時々サボります・・・)

うすゆきそう文庫にくる子どもたちに、また様々な子どもたちに『おはなし会』をしています。物語の世界でたくさん遊んで欲しいと切に願っています。本好きになってくれたらそれは嬉しいことですが、(我が二人の息子にはたくさん絵本も読み、語りも聴かせましたが本好きにはなりません。夫の影響で山好きになりました。)どの子も何があっても良き人生を送って幸せになって欲しいと思います。『語り』にはその手助けをする力があると思います。

今年93歳の私の母は岩手県一関市出身で、大きな農家で育ちました。(今は住む者もいなくて空き家です。座敷わらしは去ってしまったのでしょう。)母は幼い時『おっぴさん(方言で曾祖母のこと)』から聴いた昔話を三話だけまだ元気な時に私に伝えてくれました。

私には男の子の孫が二人います。我が家に泊まりに来ると寝る前に「いつおはなしして！」と言う4歳の孫と、子守歌を歌ってあげるとずっと寝てしまう1歳半の孫に、母から伝えてもらった昔話をいつか語りたと思っています。

『語り』は未来に繋がっていきます。



(うすゆきそう文庫 クリスマスおはなし会)